



Hewlett Packard
Enterprise

Scripting Tools for Windows PowerShell
リリースノート
BIOS コマンドレット v1.0.0.1

部品番号: 823062-192
2016 年 4 月
第 1 版

© Copyright 2015-2016 Hewlett Packard Enterprise Development LP.

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から使用許諾を得る必要があります。米国政府の連邦調達規則である FAR 12.211 および 12.212 の規定に従って、コマーシャルコンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーションおよびコマーシャルアイテムのテクニカルデータ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダーが提供する標準使用許諾規定に基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトの外に移動します。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外にある情報を管理する権限を持たず、また責任を負いません。

商標について

Microsoft® および Windows® は、Microsoft Corporation の商標です。

発行履歴

リリースバージョン	サポートされている Windows Management Framework	サポートされるオペレーティングシステム	改版日
BIOS コマンドレット 1.0	3.0 以降	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft Windows 7 SP1• Microsoft Windows 8• Microsoft Windows 8.1• Microsoft Windows Server 2008 R2 SP1• Microsoft Windows Server 2012• Microsoft Windows Server 2012 R2	2015 年 6 月
BIOS コマンドレット 1.0.0.1	3.0 以降	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft Windows 7 SP1• Microsoft Windows 8• Microsoft Windows 8.1• Microsoft Windows Server 2008 R2 SP1• Microsoft Windows Server 2012• Microsoft Windows Server 2012 R2• Microsoft Windows 10	2016 年 4 月

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

バージョン

1.0.0.1

説明

Scripting Tools for Windows PowerShell BIOS コマンドレットでは、以下のことができます。

- PowerShell スクリプトを使用して、HPE ProLiant サーバーの BIOS の管理と構成を行う
- ネイティブの PowerShell インターフェイスを使用してスクリプトの記述を簡素化する
- Windows Management ワークステーションから管理しているサーバーの BIOS に対するタスクを直接自動化する

オペレーティング環境

このリリースは、.NET 4.0 以降および Windows Management Framework 3.0 以降（PowerShell 3.0 以降を含む）がインストールされた Windows Management ワークステーションでサポートされます。

サポートされているデバイス

BIOS コマンドレットを使用すると、スクリプトを記述することができ、以下のサーバーの管理機能を自動化できます。

- DL580 モデルを除くすべての HPE ProLiant Gen8 サーバー
- すべての HPE ProLiant Gen9 サーバー

注記: BIOS コマンドレットは、HPE ProLiant Gen9 サーバーのブートモードとして、レガシ BIOS モードと UEFI（Unified Extensible Firmware Interface）モードの両方をサポートします。

オペレーティングシステム

BIOS コマンドレットは、.NET 4.0 以降および Windows Management Framework 3.0 以降がインストールされた、以下の Windows オペレーティングシステムでサポートされます。

- Microsoft Windows 7 SP1
- Microsoft Windows 8
- Microsoft Windows 8.1
- Microsoft Windows Server 2008 R2 SP1
- Microsoft Windows Server 2012
- Microsoft Windows Server 2012 R2
- Microsoft Windows 10

言語

このリリースでは、英語、日本語および簡体字中国語がサポートされます。

機能

BIOS コマンドレットは、以下の機能を提供します。

- 構文と使用例を記述するヘルプ機能が組み込まれています。
- セッションごとのワンタイムログインを可能にする接続パラメーターを使用できます。

- サーバーの BIOS に接続するための次の 2 つの方法が提供されます。サーバーの Windows OS に直接接続する方法と、Windows がインストールされていない場合は、WinPE 環境をロードできるサーバー iLO に接続する方法です。
- コマンドレット操作でマルチスレッディングを使用して複数のシステムに同時接続できます。サーバーの iLO または Windows IP アドレスに基づく接続により、1 つのコマンドで、複数のサーバーの BIOS パラメーターを表示または設定できます。
- コマンドレットとの間でオブジェクト（1 つのオブジェクト、または複数のオブジェクトの配列）をパイプできます。
- コマンドレット名の入力後に、関連するパラメーターの入力を要求する対話型の入力がサポートされます。
- 93 の HPBIOScmdlet を使用して最大 108 の BIOS プロパティを構成できます。

前提条件とインストール手順

前提条件とインストール手順については、『Scripting Tools for Windows PowerShell ユーザーガイド BIOS コマンドレット』を参照してください。

問題の修正

以前のリリースに存在していた以下の問題がこのリリースで修正されました。

- Gen9 サーバーでは、SerialConsolePort の実際の値が Virtual であるにもかかわらず COM2 として表示されました。
- 特定のシナリオで、ブートモードがレガシ BIOS モードに設定されている場合、警告メッセージが生成されました。
- AMDPCIExpressGeneration20Support の実際の値が Auto であるにもかかわらず Enabled として表示されました。
- EmbeddedVideoConnection が CONREP の Get/Set VideoOptions と同じ値を使用していました。
- Set-HPBIOSAdvancedSystemROMOptions の Example 2 に誤りがありました。
- DL320E Gen8 v2 サーバーでの Connect-HPBIOS に関する問題が解決しました。

問題点と回避方法

BIOS コマンドレットが RBSU システムユーティリティの入力を必要とする

以下の BIOS コマンドレットは、Gen8 RBSU（ROM ベースセットアップユーティリティ）または Gen9 UEFI システムユーティリティ内の対応するフィールドが空の場合、出力を提供しません。たとえば、RBSU で管理者の名前または電話番号が指定されていない場合、対応する BIOS コマンドレット Get-HPBIOSAdminInfo は出力を提供しません。

- Get-HPBIOSAdminInfo
- Get-HPBIOSCustomPostMessage
- Get-HPBIOSServiceContact
- Set-HPBIOSAdminInfo
- Set-HPBIOSCustomPostMessage
- Set-HPBIOSServiceContact

推奨処置

使用しているサーバーモデルのシステムユーティリティオプションを使用して、関連する BIOS コマンドレットのデータを入力した後、コマンドレットを再実行します。

- Gen8 サーバー（DL580 モデル以外）の場合、『HPROM ベースセットアップユーティリティ ユーザーガイド』（<http://www.hpe.com/info/rbsu/docs>）を参照してください。
- Gen9 サーバーの場合、『HPE ProLiant Gen9 サーバー用 HPE UEFI システムユーティリティ ユーザーガイド』（<http://www.hpe.com/info/ProLiantUEFI/docs>）を参照してください。

`Set-HPBIOSRedundantPowerSupplyMode` が幅広くサポートされていない

HPE ProLiant DL80 サーバーと、HPE ProLiant SL および BL シリーズのサーバーでは、実行時に `Set-HPBIOSRedundantPowerSupplyMode` 機能がサポートされません。

`ShowWindow` では、特定の BIOS コマンドレットの内容を完全には表示できない

これは、`Get-Help` の `ShowWindow` オプションに関連する、PowerShell 5.0 環境の従来の問題です。PowerShell コンソールウィンドウで特定の BIOS コマンドレットで表示される内容が、`ShowWindow` では欠落しています。

Gen9 サーバーでの `Get-HPBIOSServerSecurity` および `Set-HPBIOSServerSecurity`

Gen9 サーバーで `Get-HPBIOSServerSecurity` および `Set-HPBIOSServerSecurity` コマンドレットを実行すると、サーバーで TPM ハードウェアを利用できるかどうかに関係なく、TPM（Trusted Platform Module）機能の `Get` および `Set` 操作が実行されます。

コマンドレット名の変更

以下の表に、以前のリリースから変更されたコマンドレット名を示します。

新しい名前	以前の名前
<code>Get-HPBIOSVideoOption</code>	<code>Get-HPBIOSVideoOptions</code>
<code>Set-HPBIOSVideoOption</code>	<code>Set-HPBIOSVideoOptions</code>
<code>Get-HPBIOSAdvanceSystemROMOption</code>	<code>Get-HPBIOSAdvanceSystemROMOptions</code>
<code>Set-HPBIOSAdvanceSystemROMOption</code>	<code>Set-HPBIOSAdvanceSystemROMOptions</code>
<code>Get-HOBIOSIntelNICCDMAChannel</code>	<code>Get-HOBIOSIntelNICCDMAChannels</code>
<code>Set-HOBIOSIntelNICCDMAChannel</code>	<code>Set-HOBIOSIntelNICCDMAChannels</code>
<code>Get-HPBIOSProcessorOption</code>	<code>Get-HPBIOSProcessorOptions</code>
<code>Set-HPBIOSProcessorOption</code>	<code>Set-HPBIOSProcessorOptions</code>